



The Federation of Japan Amateur Orchestras Corp.

発行所:(社)日本アマチュアオーケストラ連盟
発行責任者:森下 元康

〒441 8028 豊橋市立花町46 光陽ビル3F
電話(0532)33 6885 FAX(0532)33 6875
e-mail: info@jao.or.jp http:// www.jao.or.jp/



vol.49

JAO 創立30周年記念大会を、 コシヒカリの里「新潟」で!



大会実行委員長
新潟交響楽団団長 大塚 哲夫

「JAO 創立30周年記念全国アマチュアオーケストラフェスティバル新潟大会」開催まであと半年足らずとなりました。いつもの大会にはない「記念」の二文字をいただき、節目の大会としての責任を痛感いたしております。平成13年が私たち新潟交響楽団の創立70周年にあたり、記念事業の一環として全国アマチュアオーケストラフェスティバル(NAOF)の誘致に名乗りをあげました。一昨年2月のJAO通常総会において開催が承認され、サブタイトルとして《新潟交響楽団創立70周年記念事業国際大会》を付加いたしました。

当団のプロフィールを簡単にご紹介いたします。新潟交響楽団は昭和6年に新潟市に誕生し、「ガタキョウ」の愛称で広く市民に親しまれております。社会人オーケストラとしては長野県諏訪市の諏訪交響楽団(大正14年創立)に次いで日本で二番目に古い歴史を有しております。創設者松木明氏は京大オケでファゴット奏者として活躍し、指揮者エマヌエル・メツェルの薫陶よろしきを得ました。蛇足ながら先ごろ他界された指揮者朝比奈隆氏は松木氏の一年後輩にあたります。松木氏は大学卒業後、郷里の新潟に帰省して昭和6年に新潟交響楽団を創設いたしました。その後、第二次大戦中も燈下管制のもと倉庫の一角で少数団員による密かな練習が続き、音楽への情熱は絶えることがありませんでした。昭和28年、戦後初の第1回定期演奏会を開催、平成4年には地域文化功労賞(文部大臣賞)を受賞いたしました。現在団員数は約100名であります。

フェスティバル会場となります「りゅーとびあ」(新潟市民芸術文化会館)は、市民の芸術文化の発信基地として平成10年に竣工いたしました。日本最長の信濃川下流の河畔に位置しており、新潟地震で橋桁が外れて一躍有名になった昭和大桥はここから徒歩1~2分の至近距離にあります。たまご型のガラス張りの建物はコンサートホール、演劇ホールそして能楽堂と三つの専用ホールを有しております。中でもクラシック専用のアリーナ型コンサートホールは1,900席の座席を持ち、正面にはパイプオルガンが装備されています。今回はAオケが指揮秋山和慶氏、コンマス徳永二男氏でサン・サーンスの交響曲第三番「オルガン付」を、Bオケが指揮下野竜也氏、コンマス三浦章広氏でラヴェルの「ダフニスとクロエ」第二組曲を演奏いたしま

す。美しく豊かな管弦の調べと、荘厳なパイプオルガンの響きは奏者と聴衆の一体感を生み出し、感動的な音楽を伝えてくれることでしょう。

サブタイトルに国際大会とあるように、今回は新潟市の姉妹都市ハバロフスク市(露)、ウラジオストック市(露)、ガルベストン市(米)やワールドカップ共同開催で交流の深まるソウル市(韓)など各都市からのメンバーの参加が予定されています。更に秋山和慶氏が音楽監督を務めるカナダ・ユース・オーケストラ(NYOC)も特別参加で一曲演奏していただくことになりました。名古屋大会の閉会式で、「新潟大会は地味コン(サート)をモットーに」とPRいたしました。外国勢の若さと華やかさが加わったことで「地味コン」もチョッピリお色直し.....といったところでしょうか。

新潟県の誇りは「ガタキョウ」?もさることながら、何と言ってもコシヒカリに代表される「お米」、そして「地酒」であります。大会のロゴマークはこの「お米」をベースにデザインされています。昼食にはおいしい「コシヒカリ弁当」を、懇親パーティには「地酒」コーナーを設営して皆様のお越しをお待ち申し上げております。6月にはワールドカップ1次リーグ戦2試合及び決勝トーナメント1試合の計3試合が市内のサッカースタジアム「ビッグスワン」で開催されることになっており、新潟市は昭和43年の「スポーツと音楽都市宣言」以来、最も輝かしい、ホットな夏を迎えることとなります。

りゅーとびあ(新潟市民芸術文化会館)



第2回日本マスタースオーケストラキャンプ®

《2001.10.19 ~ 21 千葉県木更津市》

前回に引き続き、かずさアカデミアパークで行われた『第2回日本マスタースオーケストラキャンプ』の様をお伝えします。



高円宮殿下を囲んで

10月19日

森下理事長の「マスタースオケを作ろう」という半ば冗談かと思えた一言が、気がつけば第2回目となっていたこのマスタースキャンプ。年齢制限があり、男性は40歳以上、女性は特になし(なんで?) ちなみに今回の最高齢は81歳のVnの方。最年少は22歳のHrの方。いやぁ、おじいちゃんと孫? そんな年齢差も感じさせないのが音楽の楽しいところ。昨年はアカデミアパーク内にあるホールがほとんど使えず、広い会議室での総合練習でしたが、今回は全日程の練習がホールや練習室で行われました。

初日のこの日は、主にアンサンブルの練習で、金曜日からは練習に参加できるメンバーはあらかじめ申し込み用紙に記入していたため、弦楽器と管楽器に分かれそれぞれがアンサンブルに取り組みました。講師の方々はトヨタ青少年オーケストラキャンプでいつもお世話になっているNHK交響楽団よりVnの森田昌弘先生、中村弓子先生、Vaの井野邊大輔先生、Vcの山内俊輔先生、Cbは元群響の佐々木正浩先生、管楽器はFlに武蔵野音大より青木明先生、Hrに元読響の丸山勉先生、と豪華な顔ぶれ。手短かに開会式が行われ、それぞれ練習場所へと散っていきました。

練習場所は中庭のような空間をはさみ、窓越しにそれぞれの練習の様子が見ることが出来ました。音すら聞こえませんでした。先生からたくさんのお話を学び取ろうと、皆さん顔つきは真剣そのもの。……しかし、講師の方からみれば、もしかしたら自分の親と同じくらいの人に教える訳で、それも大変ではなかったかと……

途中、ティータイムという時間があるのもマスタースならではの。コーヒーやジュースを飲み、クッキーなどをつまみつつ、練習の話や地元の話などをしていました。

日もすっかり落ち、とりあえず練習は終わり。夕食は各自で取るようになっており、アカデミアパークに併設

するホテル内でのレストランで食事。(ココだけの話ですが宿泊先でもあるこのホテルは一流ホテルのため、レストランの料金も一流なんですな) 森下音楽監督と講師の方々が打ち合わせを兼ねた食事をしていると、先生を呼びにくる参加者達。そう、食後の練習。練習場所は夜10時まで使用できるとのことで、食事もそこそこ先生達は飛び出していき、参加者との熱気あふれる練習を10時過ぎまで続けていました。ホテルはほとんどがツイン。部屋の中で宴会をしたり、練習をしたり(日付が変わるまでしていた人も) 会話が花が咲いたり、フェスティバルのような雰囲気もありました。

10月20日

午前中は昨日に続き、アンサンブルの練習でした。少々の寝不足もあるようですが、楽器を持てば気合充分。さすが、「マスタース」です。ホールで各団体が短い時間でリハーサルをして、お弁当。アンサンブルの発表は昨日の参加者と、この日から参加するオーケストラ組の人たちがお客様です。とはいえ、緊張の度合いは演奏会に勝るとも劣りません。舞台袖では本番ながらに照明もナレーションも入ります。弦楽四重奏、弦楽器アンサンブル、フルートアンサンブル、木管五重奏。そしてなんとNHK交響楽団の4人の講師の方々がドヴォルザークの『アメリカ』を披露して下さいました。絶妙なアンサンブル、特に出だしのヴィオラのソロにはゾクッとしました。これって、普通ならお金払わなきゃ見れないよ!? と思った方も多かったことでしょう。大変勉強にもなりました。

そして、アンサンブル組の日程は終了。しかしほとんどがそのままオケ組にも参加申し込みをしておりましたので、そこにこの日からの参加者が加わり約80名のオーケストラになりました。

弦楽器はパート、管・打楽器は森下音楽監督の指導と

なり、それぞれ分かれての練習。チャイコフスキーの1番というあまりアマチュアでは取り上げられない曲ですが、練習はそれぞれ先生方のご指導により成果が上がってきました。マスターズとはいっても音楽に対する意識は若い人たちには負けていません。総合練習にも力が入ります。

が、体力的に長続きしないところはやはりマスターズか？少々早めに練習が終わり、早々に懇親会へと移りました。関係者最高齢84歳になられてもまだまだお元気の村上先生のご挨拶で始まった懇親会。もちろん「マスターズ」ですからお酒があります。利き酒大会コーナー(?)もあり、会場内は大盛況。真っ赤な顔で音楽の話を見真面目に楽しくしている様子があちらこちらで見受けられました。もうお子さんにも手がかからなくなったというお母さん、仕事上でも現役で頑張っているお父さん、定年を迎えて音楽を楽しんでいるおじ様、地元オケではコンマスで頑張るお父さん……。どんな立場であっても音楽は平等で年齢をも超える強いつながりを感じます。共通の話題の中では年の差関係なし。もちろん、懇親会の盛り上がりは解散後も収まることなく、ホテル内で続きが行われたことは言うまでもありません……。(宴会ばかりやっているように聞こえるかもしれませんが...実際そうなんです)

10月21日

二日酔いの様子も見せず(さすが「マスターズ」(?))朝早くからの練習です。なんと、午後からは高円宮憲仁親王殿下ご臨席ということで、心なしか緊張を隠せません。また昨日披露されたアンサンブルも再び演奏することとなり、メンバーはかなり動揺。しかしそこは「マスターズ」(??)度胸のよさで練習を進めていきます。

この日は皆さんが帰宅の途につかれる訳ですが、東京湾アクアラインを通る東京駅行き的高速バスが演奏会終了時間とほぼ同じような時刻と、とても時間的に余裕がないということで、本番前に簡単な閉会式を開きました。昼食のお弁当を食べ、いよいよ演奏会が始まります。客席には聞きに来て下さった方々、地元のかずさジュニアオーケストラのメンバーなどが静かに待っていると、高円宮憲仁親王殿下のご入場。場内起立でお迎えます。その頃、舞台裏ではそりゃあもう大騒ぎ。誰が見ても普通の演奏会の様な進行。それなのにステージマネージャーがいらない、故に照明のタイミングや舞台上のセッティングの指示も出せない、影マイクの原稿はない.....と会館側の担当者は焦るばかり。それでも乗り切ってしまうところは「マスターズ」だから、か(???)

講師の方々にも加わって頂いたチャイコフスキーの交響曲第1番はロシアの雰囲気たっぷりの素晴らしい曲で、森下理事長の指揮も久しぶりで緊張感もあり、また短い時間ではあったけれどもお互いに理解しながら得ることの出来た音楽のココロを、思う存分発揮することが出来たかと思えます。演奏は無事終わったものの、案の定、演奏終了時間はバス出発10分前。バスに乗られる方々は記念撮影にも写ることなく慌てて帰宅され、お別れの挨拶も出来ませんでした。

地元のオケの方々が率先して後片付けをして下さり(お疲れ様でした)来年への期待を膨らませながら帰宅しましたが、翌日はゴルフコンペがあったようです。昨年は雨、今年も少々曇り空ではありました。成績のほどは如何だったのでしょうか.....

平成14年は9月に開催予定のこと。フェスティバルももちろん楽しいですが、マスターズ「ならでは」のこ

とも多くとても充実したものとなっています。年齢該当者でまだ未経験の方はぜひ参加してみてください。

最後になりますが、本番の演奏で何かへんだなあ、と思ったことはありませんでしたか？実は多分世界初演のチャイコフスキーになってしまったのです。あまりの事の重大さに大きな声では言えないので、どうしても知りたい方は連盟事務所『私に教えて』係りまでメールを頂ければこそとお教えしましょう。

(文責：JAO編集部)



* 参加者アンケートより

昨年より親しみを感じました。もっと年配の方々の出演を期待いたします。

講師の先生によるパート練習は大変勉強になりました。次回もこうした時間が持てればよいと思います。末筆になりましたが、企画・運営の労をおとり下さいました役員の皆様方に厚くお礼申し上げます。

マスターズの意義がやや壊れて来た感じである。アンサンブル(サロンコンサート)に重点が入って来たことは良いと思うが、参加できなかったものとしては物足りなさを感じた。

N響の先生方には、色々親切に教えて頂き、大変参考になりました。

裏方が少なく思いました。もう少し皆さんに仕事をしてもらっても良いのでは？

パート内の交流に工夫が必要。

ロマン派以降のシンフォニー等を選ぶのであれば、どう説明されてもアマオケフェスティバルと同じになってしまうと思います。結局人が集まらずに若い人を集めてしまったのでは？

40代以降では年令が若すぎると思いました。多くの企業の定年である55才以上にして、少人数でも楽しめるパロックあたりの曲を選んで開催できないでしょうか。いくつかの曲目を決めておいて、希望する曲でグループを作るというのはどうでしょうか。

追悼 故猪本乙矢先生

昨年夏、国際アマチュアオーケストラフェスティバル2001 名古屋における世界アマチュアオーケストラ連盟の会議に日本の委員として元気なお姿を拝見した猪本乙矢先生が、夏の終わりから体調を悪くされついに12月の半ば急逝されました。

先生の主宰する熊本ユースシンフォニーオーケストラは36年の歳月をかけ、今や日本を代表する青少年オーケストラに成長し、海外公演はもとより国際交流の中心としてわが国の青少年オーケストラ教育の先達として活躍されてきました。その間幾多の優秀な音楽家、教育家を輩出し、当連盟の青少年オーケストラ委員会の顧問をはじめアジアユースの委員としても多大な貢献をされました。また平成12年には地域文化功労者として文部大臣表彰も受けられ、今後のご活躍が期待されている矢先の訃報でした。

12月14日猪本乙矢氏の霊前にて、森下元康理事長と土田浩青少年オーケストラ委員長が、先生の遺志を引き継ぎ今後の青少年音楽活動の発展を誓って祈りを捧げました。謹んでご冥福をお祈りします。合掌



事務局通信

年が明けて早くも3ヶ月になろうとしている。そして年度末の多忙さが再びやってきた。結果連絡が遅くご迷惑をかけたTCC業務も1月になってしまった。3月には「第18回トヨタ青少年オーケストラキャンプ」も控えている。年が明けても追い立てられるような日々である。

話題が古くて恐縮だが、最近一段と我慢ならないことがある。それは店で買い物をしたときや飲食をしたときの若い店員の口上である。例の「一万円からお預かりします。」と言うせりふである。「一万円から……」と言うなら「……いただきます。」だろう。「……お預かりします。」と言うなら「一万円を……。」だろうと、つい突っ込みたくなってしまう。さらに悲劇は、これを正しい言葉だと信じて使っている節があることである。店の責任者なり大人がなぜ注意しないのか、不思議である。言葉は時代

とともに変化するもので、誤用や誤読がいつの間にか正しいものとなった例はたくさんある。「だらしない」という言葉は本来「しだらない」が正しく、江戸時代、しゃれでひっくり返して言っていたもの(倒語)がいつの間にかそちらが使われるようになってしまった。漏れる意の「漏洩」は今日では「ろうえい」と読むが、正しくは「ろうせつ」である。多分「曳航」(えいこう)の曳の字に似ていたので「えい」と誤読し、それがいつの間にかまかり通ったものと思われる。「消耗品」も正しい読みは(しょうこうひん)だった。こうなると正しい言葉は多数決ということになる。「重複する」(じゅうふくする)が正しいとなる日はもうすぐだ。この間コンビニで買い物をしたとき、店員が「千円、お預かりします。」と言った。私はアレッと違和感を覚えたが、しばらくしてこれが正しい言葉だと気づき苦笑いした。私の頭が時代に追いつくのも、もうすぐだ。

Drive Your Dreams. 人、社会、地球の新しい未来へ。 TOYOTA

トヨタは、全国で20年9000回を数えるトヨタコミュニティコンサートなどアマチュア音楽活動をはじめ、美術、演劇など幅広い分野で地域に根ざした文化活動を応援しています。みんながもっとワクワクドキドキするために、トヨタは、いっしょに歩いていきます。

もっと、たくさんさんの感動を応援したい。これもトヨタの願いです。



ワクワクワクワク、
ドキドキドキドキ。



●トヨタのメセナ(芸術文化活動)の情報はインターネットでより詳しくご覧いただけます。www.toyota.co.jp/mecenat/ 応援します数知万博